

2018 January

Vol.59

広島西医療センターNEWS

発行所:独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター

〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号 TEL.0827-57-7151(代) <http://www.hiro-nishi-nh.jp/>



撮影者:福島 貴郁(泌尿器科医師)

タイトル:グレーシャーポイント

コメント:当院でのアメリカ留学中にヨセミテ国立公園で撮影したものです。日本とは違う規模での絶景がここにあります。

CONTENTS

■2018年 年頭のご挨拶 2	■患者図書室から.....14
■第71回 国立病院総合医学会 IN香川.....3	■栄養士のつばやき②④.....15
■秋行事 芸術の秋でSHOW～発表会・観賞会～.....11	■地域医療連携室実績報告.....15
■医療安全取り組み発表会の報告.....12	■編集後記.....15
■第8回休日前立腺がん検診.....13	■外来診療担当医表.....16

病院理念「患者さんと共に」

■基本方針

1. 患者さんの意思の尊重と信頼関係の確立
2. 地域に密着した良質で安全な医療の提供
3. 予防医療への貢献
4. 医療の質の向上のための研鑽
5. 経営基盤の確立

■「患者の権利」宣言

1. 個人の尊厳の権利
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 自分の受けている医療について知る権利
4. 自分の意見を表明し、自己決定する権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利



公認キャラクター
「にっしーくん」



広島西医療センター 2018年 年頭のご挨拶

院長 奥谷 卓也



平成30年（2018年）あけましておめでとうございます。みなさん、良い年をお迎えになられたことと思います。

昨年は地政学的リスクが高まり、落ち着かない日が多かったと思います。とは言っても、野球にサッカーに一喜一憂し、パンダの赤ちゃんシャンシャンの映像に思わず微笑む、そんな平和な生活を楽しめるわれわれは如何に幸せであるかを痛感した年であったような気がします。今年には冬季オリンピック、サッカー W杯が開催されます。スポーツを通して、世界（35億×2）が一つになる瞬間を是非見たいものです。

当院は平成25年に施設がほぼ全面新築となり、平成27年に、創設（統合後）10周年の節目を迎えました。統合時の全職員数は約430余名でしたが、今では700名強まで増加し、医師だけを見ても、30名そこそこで非常に苦勞していた統合時に比べ、現在では60名近くになり、初期臨床研修医も定員6名（2学年で12名）に対しフルマッチが続いております。看護師についても募集人員を応募者数が上回る状態を毎年維持しており、人が集まる病院として成果が実っているようです。

提供する医療の質については、みなさんのご評価をお聞かせ願いたいところですが、地域医療支援病院、災害拠点病院、救急告示病院、へき地医療拠点病院、難病医療拠点病院、在宅療養後方支援病院などの機関指定を受けており、地域の中核病院として地域社会に必要とされる医療の提供を続けるよう努力してきました。平成30年度は診療報酬、福祉サービス費等の同時改定が6年ぶりに実施されます。当院も基本的には地域のための（市民）病院であることを継続しながら、さらに社会に適応できるような特化した機能の取得が病院の存続のためには必要かも知れません。

このような本業以外にも、恒例となった患者・地域住民のみなさん、当院職員参加の広島西医療センター祭りは昨年節目の10回目を迎えました。10年前に数人の有志で始まったセンター祭りは今や職員・患者・家族・地域住民など数百人が楽しめる催しものに成長しました。この10年間祭りに何らかの関わりをしていただいた全ての方々に感謝いたします。本当に有難うございました。そして、今年からももっと楽しいものにしていただくことをお願いします。みなさんも楽しみにしてください。

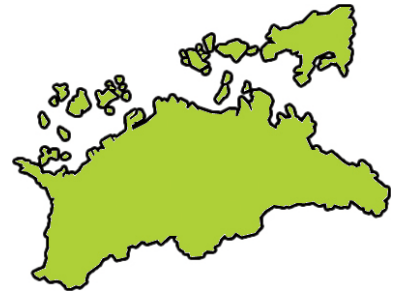
広島西医療センターが安定した水平飛行、順風満帆な航海を続けることができるよう、そして、これからも地域医療の強力な担い手として、「患者さんと共に」安全・安心な医療の提供をお約束すると同時に、職員がみんな「元気で幸せに」働き、過ごしていけるよう努めてまいります。

みなさんにとっても今年も良い年になりますよう祈念いたします。



第71回 国立病院総合医学会 IN香川

去る11月10日～11日にかけて、「道—明日へ—国立医療の未来を拓く」をテーマに、第71回国立病院総合医学会が香川県高松市にて開催されました。広島西医療センターからシンポジウム2題、一般口演15題、ポスター発表22題がエントリーし、座長9名を含めた44名が発表に臨みましたので、報告致します。



シンポジスト



□職 名：心理療法士 □氏 名：舘野 一宏
 □演 題：「メンタルヘルスの職員研修」「職員のメンタルヘルスへの支援について」
 □発表の概要・感想：

1日目のシンポジウム「生き生きとした職場づくりを目指して—離職者を減らすために—」、2日目のシンポジウム「心理的支援の新たな展開～アウトリーチ・メンタルヘルス・災害支援を通して～」と、2日続けてシンポジストとして当院での取組を報告してきました。他のシンポジストの先生方の先進的な取り組みやフロアからの意見も聴け、非常に充実した2日間でした。職員が生き生きと働ける職場環境を整えることが、提供する医療の質の向上に繋がります。患者—病院—職員がwin-win-winとなるような職場づくり・組織づくりに貢献できるよう、努めたいと思います。

一般口演発表者

□職 名：診療部長 □氏 名：立山 義朗
 □演 題：「骨形成を伴う肉腫型左胸膜中皮腫の1剖検例」
 □発表の概要・感想：

ポスターから口演に変更させられましたが、結果的にはe-posterという初めての試みに戸惑わされることなく、時間も7分で、発表当日ぎりぎりまで修正可能だったのでよかったです。写真は検査科の技師の人が周りから怒られながらも何枚もシャッターを切って撮影してくれたうちの1枚です。発表は珍しい症例の1例報告ですが、まあまあうまくいった感じです。ただ、ここは最も狭くスクリーンも小さい会場で少し残念に思いました。病理関係の発表が少なかったからと思いますが、全国のNHO病院には常勤病理医もそれなりにいるはずなのに、もっとこのような場で症例発表や研究発表をしてほしいと思いました。



□職 名：神経内科医師 □氏 名：村尾 智美
 □演 題：「極めて長大な病変を認めた視神経脊髄炎の症例」
 □発表の概要・感想：

11月10日、神経・筋疾患（筋ジストロフィー）セッションにおいて上記演題にて発表させていただきました。画像的にもインパクトのある症例であり、フロアの皆様にも興味を持っていただくことができたようで、ご質問・ご指導を多くいただくことができました。他施設の症例・研究も大変興味深い報告が数多くあり、今回勉強してきたことを今後の診療に還元していこうと思います。個人的には久しぶりのoral発表でとても緊張しました。

□職 名：泌尿器科医師 □氏 名：長坂 啓司
 □演 題：「馬蹄腎に発生した多発左腎結石の1例」
 □発表の概要・感想：

国病学会で上記の演題で症例報告をさせていただきました。手術ビデオなども上映しわかりやすい発表になったと思います。ご指導いただきました、浅野先生、福島先生にこの場を借りて御礼申し上げます。





- 職 名：臨床研修医 □氏 名：小田 祥大
 □演 題：「大腿骨転子部骨折の術後整復位評価」
 □発表の概要・感想：

皆さま、こんにちは。西医療センター初期研修医の小田祥大です。今回は第71回国立病院総合医学会のために、高松へ行ってまいりました。私は「大腿骨転子部骨折の術後整復位評価」というテーマで発表させて頂きました。発表時間7分、質疑応答3分の合計10分間でした。1年前はポスター発表でしたが、今回は口演での発表という初めての経験でかなり緊張しました。今回は残念ながらベスト口演賞は貰えませんでした。壇上から人前で発表出来たのは、大変いい経験になりました。整形外科 岩崎洋一先生、永田義彦先生、糸谷友志先生、藤原祐輔先生にはお忙しい中何度も何度も校閲していただきました。お忙しい中、時間を割いていただきまして本当にありがとうございました。大変良い経験をさせていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

- 職 名：臨床研修医 □氏 名：鍵山 義斗
 □演 題：「広島西医療センター泌尿器科における訪問診療の初期経験」
 □発表の概要・感想：

今回私は、「広島西医療センター泌尿器科における訪問診療の初期経験」と題し、当院泌尿器科の訪問診療6件についての統計並びに、現在の訪問診療の現状や保険診療の点数等について発表しました。2日目の最後の時間帯でのセッションということもあり、会場内は非常に閑散としており、寧ろ発表しやすい環境でした。ご指導いただきました浅野先生、福島先生本当にありがとうございました。



- 職 名：臨床研修医 □氏 名：近藤 賢史
 □演 題：「経過中に陰性鋸歯状波が消失し、体表面心電図では診断困難であった通常型心房粗動の1例」

□発表の概要・感想：
 今回の学会では循環器科での症例を発表しました。朝一のセッションで遠方から駆けつけていただいた中村先生には大変感謝しております。発表中はフロアを見る余裕もなかったのですが、質疑応答の際には病院の方々が応援に来てくださっていたのが見え、落ち着いて答えることができました。また他の病院の同期たちの頑張りを見て差を感じることもできました。準備期間に院外研修でご迷惑をおかけし、つらい時期でしたが、座長賞をいただき、その後中村先生とうどんを食べ高松の町、城を散策し、いいこともあるのだなと感じました。と思ったのも束の間、次の学会発表(またも循環器科)も迫っているということに驚愕しております…。

- 職 名：臨床研修医 □氏 名：野口 真路
 □演 題：「脳性麻痺で重症心身障害病棟に長期入院中、膀胱肉腫様癌を発症し死亡した一剖検例」

□発表の概要・感想：
 香川県高松市で開催された国立病院総合医学会で上記タイトルで発表させていただきました。私自身が担当した患者さんではなかったのですが、カルテを見返し、担当された先生方からお話を伺い、患者さんがどのような経過をたどったか想像しながら整理し考察していく過程は、私にとって意義深く貴重な経験となりました。また、質疑応答で自分の不勉強が明らかになったことも含めて今後の課題も見つけることができ、とても良い機会となりました。



- 職 名：臨床研修医 □氏 名：平井 雄一郎
 □演 題：「腹痛を主訴に来院され、腹部超音波検査を契機に診断し得た腹部内臓動脈解離の2例」

□発表の概要・感想：
 去る11月11日(土)第71回国立病院総合医学会にて、腹部内臓動脈解離の症例について発表し、口演賞を頂くことができました。また、他演者の多岐にわたる分野の発表も拝聴することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。最後になりましたが、学会発表を行うにあたり、肝臓内科・消化器科・検査科の先生方をはじめ、お世話になった皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

- 職 名：副栄養管理室長 □氏 名：坂根 良和
 □演 題：「食事形態表と食事形態比較一覧表の作成および活用について
 ～施設間での食事形態連携の試み～」

□発表の概要・感想：

今回、当院と岩国、柳井の3医療センターが共同で取り組んでいる研究を発表させていただきました。内容は転院や自宅退院の際、転院先や自宅でも安全で適切な食事を選択するためのツールの作成や、連携の試みについてでした。学会では地域連携のセッションで栄養部門の食事の連携が紹介でき、ご助言も頂き、また他職種の連携が聞け、とても有意義な学会となりました。さらに、讃岐うどんにおでん、骨付き鶏、オリーブはまち、和三盆スイーツなど香川グルメも堪能できた学会でした。



- 職 名：作業療法主任 □氏 名：富樫 将平
 □演 題：「生活行為向上マネジメントを用いた終末期がん患者1例への関わり」
 (座長)「リハビリテーション 脳血管」

□発表の概要・感想：

今回、リハビリセッションでの口演とeポスター・脳血管リハビリセッションでの座長をさせていただきました。普段私が参加する学会とは異なり、興味のある分野での他職種の取り組みを聴講することができ、とても充実した2日間でした。この経験を臨床に活かしていきたいと思います。

- 職 名：理学療法士 □氏 名：佐藤 善信
 □演 題：「カフアシストE-70における設定圧の均一性およびピークフローの検討」

□発表の概要・感想：

今回の学会では、リハビリテーション科から6演題発表を行いました。その中で、私は咳嗽力の低下した神経筋疾患患者さんに主に使用される排痰補助装置に関する発表を行いました。発表に対して他施設の方から質問も頂き、多く意見交換をすることができました。

今後も今回の経験を生かしながら臨床と研究に取り組み、リハビリテーション科の質の向上に貢献していきたいと思っています。



- 職 名：理学療法士 □氏 名：山口 雄太
 □演 題：「Duchenne型筋ジストロフィーにおける呼吸機能と側弯の関係性について」

□発表の概要・感想：

今回、当院入院中のデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者さんの呼吸機能と側弯症についての発表を行いました。他施設からの意見も多く頂くことができ、良い経験となりました。今後も今回の経験を活かしながら臨床及び研究に取り組んでいきたいと思っています。

- 職 名：臨床検査技師 □氏 名：梅崎 清美
 □演 題：「魚骨によるS状結腸穿孔に伴う膿瘍形成の一例」

□発表の概要・感想：

11月10～11日高松で行われた第71回国立病院総合医学学会にて「魚骨によるS状結腸穿孔に伴う膿瘍形成の一例」という演題で発表させていただきました。私自身、初めての学会参加であり発表だったためとても緊張してしまいましたが、貴重な経験となりました。また、いろいろな発表を聴講することができ大変勉強になりました。今回の学会発表を行うにあたりご指導頂いた先生、検査科スタッフの皆様にご感謝申し上げます。



- 職 名：臨床検査技師 □氏 名：武知 そら
 □演 題：「Heyde症候群を疑った2症例」



□発表の概要・感想：

第71回国立病院総合医学学会にて「Heyde症候群を疑った2症例」という演題で発表させていただきました。私は口演発表・症例報告は初めてで、会場は想像していたよりも広くスクリーンも大きいので不安と緊張でいっぱいでしたが、無事に発表を終えることができました。また思いもかけずベスト口演賞もいただくことができました。今回の学会発表を行うにあたり、ご指導いただきました先生方、検査科のスタッフの皆様にご感謝致します。

□職 名：診療情報管理士 □氏 名：岩田 潤一
 □演 題：「当院におけるデータ提出加算の試行データの作成について」
 □発表の概要・感想：

平成28年度より、当院も厚生労働省に診療データの提出が必須となりました。今回、データ提出加算を取得するための試行データ作成について、発表をいたしました。昨年度から同じくデータ提出加算の取り組みをされていて、電話でやり取りをしていた松江医療センターの方の発表を拝聴することができました。電話でのやり取りのみで初対面でしたが、担当者としてお互いの発表を聴くことができ、苦勞を分かち合うことができました。立派な会場で多くの方々に向けて発表する機会を与えて頂き、感謝しております。




ポスターセッション発表者




□職 名：臨床研修医 □氏 名：木南 貴博
 □演 題：「甲状腺疾患治療中に認めた貧血を契機に発見されたA型胃炎に早期胃癌が合併した1例」
 □発表の概要・感想：
 今回、消化器科から「甲状腺疾患治療中に認めた貧血を契機に発見されたA型胃炎に早期胃癌が合併した1例」というテーマをいただき、第71回国立病院総合医学会で発表させていただきました。前回の学会の発表の反省をもとに、今回は準備や練習に時間をかけ取り組むことができました。ご指導いただいた藤堂先生をはじめ、ご協力をいただいたすべての皆様に、この場をお借りし感謝申し上げます。

□職 名：医療安全管理係長 □氏 名：山田 都
 □演 題：「経腸栄養に関する安全管理と経費削減」
 □発表の概要・感想：

今年度は、「経腸栄養に関する安全管理と経費削減」について発表しました。新しい取り組みで、Eポスターでの発表でしたが、ポスターをメールでのやり取りで上手く行くのか心配でしたが、思っていたよりもスムーズに送信でき、また、発表時の画面操作も問題なく行う事が出来ました。昨年度はポスター賞を頂きましたが、今回は残念でした。



□職 名：副看護師長 □氏 名：河内 祥子
 □演 題：「糖尿病透析予防指導管理料算定増加に向けたフロー作成」
 □発表の概要・感想：
 私は糖尿病対策委員会に所属しており、「糖尿病透析予防指導管理料算定増加に向けてのフロー作成」のeポスター発表を行いました。発表内容は、2012年の糖尿病透析予防指導管理料新設以来、当院でも指導件数増加に向けて取り組んできましたが、年間平均1～2件と伸び悩んでおり、今回、指導に関わる各職種の役割を見直して作成したフローの運用により、指導件数が大幅に増加したので、その方法について報告しました。今回の取り組みを通して件数増加も大切ですが、患者の変化、反応の評価を表していくことが重要であると思いました。今後は、アンケート調査等で患者の反応を客観的に評価し、レベル向上を目指したいと考えます。

□職 名：副看護師長 □氏 名：加茂 恒樹
 □演 題：「重症心身障がい児(者)の自傷他害行為への看護師の捉え方—カンファレンスを看護師の教育の場として考える—」
 □発表の概要・感想：

2017年11月10日に香川で行われた国立病院総合医学会にてeポスターでの発表を行いましたので報告させていただきます。初めてeポスターという形式で発表しました。発表の前に練習をしたものの、本番ではスムーズに操作できなかった場面もありましたが無事に発表出来ました。他施設の重心看護・保育、災害時の対応など多くの事を学ぶことができ充実した1日でした。



□職 名：看護師 □氏 名：小川 ゆき
 □演 題：「患者のポジショニング時の体圧の変動の分析～所要時間別とDVD学習前後の比較～」
 □発表の概要・感想：
 平成29年11月11日に高松市のサンポートホール高松で開催された第71回国立病院総合医学会に参加し、演題「患者のポジショニング時の体圧の変動の分析」を発表させて頂きました。普

段大勢の人の前で発表する機会が無い為、発表当日は大変緊張しましたが、聞き取りやすく分かりやすく発表する事を心掛けました。この研究を行った事で病棟スタッフのポジショニング方法や体圧のかかりやすい部位の傾向を知る事が出来、良い学びとなりました。この学びを今後の褥瘡予防対策にも活かしていきたいと思っております。今回の研究にご協力して頂きましたスタッフの方々に感謝申し上げます。

□職 名：看護師 □氏 名：柿本 友里花

□演 題：「筋ジストロフィー病棟における人工呼吸器装着患者の
外出に同行できる看護師の育成—自己評価の変動とその要因—」

□発表の概要・感想：

初めての大きな会場での発表だったため、緊張しました。また、eポスターという慣れない発表形式で不安でしたが、まさかの故障…しかし、練習通りに上手く発表できたと思います。研究内容を分かり易く発表するための事前準備や発表練習の大切さを学ぶことができました。この度の研究に御協力してくださいました皆様に心より感謝申し上げます。



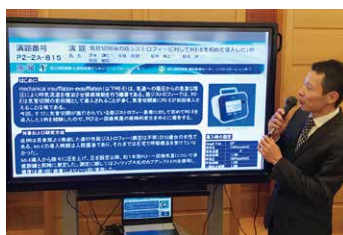
□職 名：理学療法主任 □氏 名：清水 謙仁

□演 題：「気管切開後の筋ジストロフィーに対して初めてMI-Eを導入した1例」

□発表の概要・感想：

筋ジストロフィーでは、MI-Eは気管切開の前段階として導入されることが多く、気管切開後にMI-Eが初回導入されることは稀です。

今回、すでに気管切開が施行されている筋ジストロフィーの患者に対して初めてMI-Eを導入した1例を経験したので、PCFと一回換気量の経時変化を中心に報告させて頂きました。



□職 名：理学療法士 □氏 名：岡田 基紀

□演 題：「疥癬に感染した患者へのリハビリ対応」

□発表の概要・感想：

今回はリハビリでは関わることの少ない、皮膚感染症についてポスター発表を行いました。貴重な意見を頂きとても勉強になりました。また、様々な発表を聴講し、とても有意義に過ごすことができました。今回の経験を今後活かしていきたいと思っております。

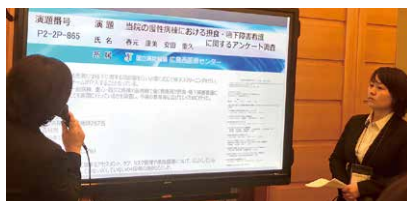


□職 名：言語聴覚士 □氏 名：春元 康美

□演 題：「当院の慢性病棟における摂食・嚥下障害看護に関するアンケート調査」

□発表の概要・感想：

当日は、リハビリのみでなく、他職種の方とそれぞれの病院での嚥下障害への取り組み等について意見交換をすることができ、大変勉強になりました。今後の業務にいかしていきたいと思っております。発表にあたって、ご協力いただいた方に感謝申し上げます。



□職 名：臨床検査技師 □氏 名：高蓋 美子

□演 題：「Helicobacter cinaedi による菌血症を3度繰り返した免疫不全状態の1症例」

□発表の概要・感想：

今回、「Helicobacter cinaedi による菌血症を3度繰り返した免疫不全状態の1症例」という演題で発表させていただきました。学会での発表は初めてのことで、先生方や検査科のみなさまに抄録の書き方からeポスターの作成、発表まで手取り足取り教えていただき、無事終わることが出来ました。発表では緊張してしまい思うようには出来ませんでしたが、また発表させていただく機会がありましたらリベンジしたいと考えています。ご指導くださいました皆様に感謝申し上げます。



□職 名：薬剤師 □氏 名：山根 有美子

□演 題：「免疫グロブリン製剤自己注射導入における薬剤師の関わり」

□発表の概要・感想：

今回の国立病院総合医学会においてポスター発表をさせていただきました。薬剤師業務として、セントラル業務のみならず病棟や外来薬剤指導も積極的に介入することができた症例を発表しました。また、他職種の発表も多くあり普段知ることができない内容もあり大変勉強になりました。

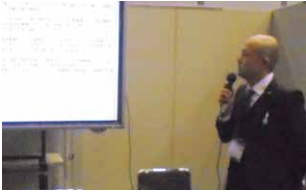


□職 名：薬剤師 □氏 名：真鍋 亜梨早

□演 題：「当院外来患者におけるデュラグルチドの使用感に関するアンケート調査」

□発表の概要・感想：

第71回国立病院総合医学会において、「当院外来患者におけるデュラグルチドの使用感に関するアンケート調査」についてポスター発表をさせていただきました。今回初めての学会発表であり前日の夜と当日は緊張でいっぱいでしたが、何とか無事終わることができ、良い経験になりました。自分の故郷である香川で発表を行うことができ息抜きにもなりました。今回の学会発表を行うに当たり、ご協力・ご指導いただきました太田先生や薬剤部の皆様へ感謝申し上げます。



□職 名：主任児童指導員 □氏 名：徳山 純一

□演 題：「PDCAサイクルを用いた病院公認キャラクター「にっしーくん」の知名度UP大作戦」
（座長）ソーシャルワークALS患者と重症心身障害児者に対する支援

□発表の概要・感想：

この度の国立病院総合医学会では、広島西医療センター公認キャラクター「にっしーくん」のより一層の知名度アップを目的として発表をしてきました。限られた時間ではありましたが、楽しく元気に会場みなさんにアピールすることができたように思います。とても良い経験となりました。

□職 名：児童指導員 □氏 名：石田 和寛

□演 題：「グループ療育活動『写真愛好会』にみる効果について」

□発表の概要・感想：

2017年11月11日、国立病院総合医学会で発表させていただきました。短い時間で演題の内容の焦点を絞って聴講にこられたみなさんにわかりやすく発表するように心がけ臨みました。他病院の方達からは、「よく声が出ていた」等々とお褒めの言葉を頂きました。他病院、他職種の方々と久しぶりに会うことができ懐かしさを感じてきました。満面の笑みで発表しましたが、ベストポスター賞には輝けませんでした。あらためて療育活動を見直す機会が得られグループ活動のよさを再認識でき、他の発表者からの刺激を受けることもでき明日から自分の業務に対してあらたな気持ちで取り組んでいこうと思いました。



□職 名：児童指導員 □氏 名：中谷 勇樹

□演 題：「デュシェンヌ型筋ジストロフィー利用者のタブレット端末の導入による生活空間の拡大
～児童指導員による利用までの支援～」
「財産管理委任契約の利用までの支援について」

□発表の概要・感想：

この度の国立病院総合医学会にて2題のポスター発表を行いました。これまで筋ジストロフィー利用者の生活を支援してきた内容をまとめ、他の病院の方々に聞いていただきました。今後も利用者の生活が向上できるように支援していきたいと思っております。

□職 名：児童指導員 □氏 名：川島 輝一

□演 題：「当院のサービス等利用計画作成状況から見た課題と展望」

□発表の概要・感想：

今回、国立病院総合医学会で発表しました。初めての体験だったため気を引き締めながら準備を進めました。発表内容は今後自身が向き合っていくべき課題を選択しましたが、限られた時間と文字数の中でどれほど考えを聴講者に伝えることができたか…。他院の発表を見る事もでき、自身の見識を広める良い機会となりました。ありがとうございました。



□職 名：主任保育士 □氏 名：廣田 純子

□演 題：「主任保育士複数配置の効果と課題について」

□発表の概要・感想：

今年度より主任保育士が複数配置になったことを総合医学会にて「主任保育士複数配置の効果と課題について」という演題でeポスター発表させていただきました。機構病院では初めての複数主任保育士という事もあり、全国から集まった療育指導室職員より関心を持っていただけたようです。ご指導頂きました皆様へこの場を借りて感謝申し上げます。

- 職 名：保育士 □氏 名：上田 将士
 □演 題：「就学前の準超重症児における個別療育の取り組み」
 □発表の概要・感想：

今回初めて総合医学会へ参加し、昨年度に取り組んだ個別療育について発表しました。発表するにあたって、分かりやすいようにスライドを作ることや口頭での説明の難しさを学びました。他の様々な発表を見ることで良い刺激となり、貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

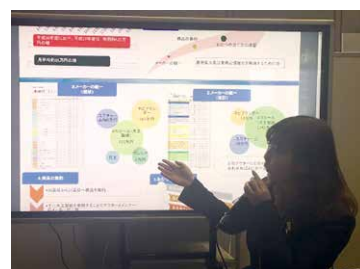


- 職 名：外来係 □氏 名：北本 純一
 □演 題：「当院における診療報酬請求の見直しとその取り組みについて」
 □発表の概要・感想：

平成29年11月10日(金)～11日(土)香川県高松市で開催された、第71回国立病院総合医学会に参加し、演題についてポスター発表を行いました。朝一番(8:30～)にも関わらず、多くの聴衆に囲まれて緊張しましたが、これまでの取り組みの中で得られた成果を、自分のことばで伝えることが出来たと実感しています。今後も、医療業界の流れや病院内の実態を機敏に感じ取りながら、今の自分に出来ることを常に考えて、挑戦し続けていきたいと思えます。昨年度の聴講も含め、貴重な経験をさせていただき、感謝申し上げます。

- 職 名：契約係 □氏 名：神園 滯奈
 □演 題：「慢性病棟患者が使用しているおむつを対象とした経費削減の取り組み」
 □発表の概要・感想：

学会へ参加させていただくことは人生ではじめてであり、とても貴重な経験となりました。1年間継続してきた取組をこのような大舞台で発表させていただくこととなり、発表まで緊張が続き、うどんしか喉を通りませんでした。無事発表を終えることができたのは、ひとえに、看護部の方、事務スタッフの方々のお力添えのおかげです。心より感謝申し上げます。本学会で学んだことを活かし、より一層、業務に勤しんでいこうと存じます。



- 職 名：庶務係 □氏 名：千田 智史
 □演 題：「広島県集団災害医療救護訓練の実施とアンケート結果」
 □発表の概要・感想：

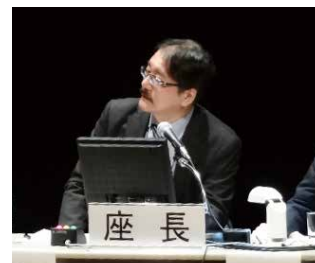
昨年自分は入職1年目で、周りの方におんぶにだっこの状態で訓練本番を迎えました。今回、学会発表に向けて内容をまとめていく中で、本当に大きなプロジェクトであったことを実感し、当院が一丸となって挑んだ取り組みを学会という場で披露することができてとても幸せに思いました。ベストポスター賞にも選んでいただきましたが、広島西医療センターとしての受賞だと感じています。チーム西医療の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



- 職 名：院長 □氏 名：奥谷 卓也
 □セッション：「重心(障害児)者の災害支援」
 特別講演2 走り続けたから掴めた
 (演者：池 透暢 氏 (リオパラリンピック競技大会 ウィルチアールラグビー 銅メダリスト))

□発表の概要・感想：

わたくしは学会開催2日前に高松へ入り、各協議会の役員会、総会などをハシゴしながら、学会2日目(最終日)を迎えました。午前中はシンポジウム「障害者の災害支援」のコーディネーター兼座長(司会)を務め、4名の演者の方に東日本大震災時の経験、障害者の在宅での対応、行政の災害対策、地震以外の地域災害時の対応・今後の対策などについてディスカッションしました。災害発生時の障害者への対応を考える上で、一石を投じることができたのではないかと感想を持ちました。午後からは特別講演2が2千人収容の大きなホールで開催され、わたくしが座長(司会)を務めました。一般の方々にもポスター、チラシ、HPなどで案内し、参加していただく市民公開講座という形で行われ、演者には、リオパラリンピックウィルチアールラグビー銅メダリストの池透暢さんをお招きし、実演を交えてお話しいただきました。交通事故受傷直後の絶望感から少しずつ這い上がっていく過程、また、関わった医療者への感謝などを非常に感情豊かに話してくれました。パラリンピックを含む障害者スポーツの啓発が自分を生かしてくれた人達への恩返しであるとの心情も話してくれました。最後は、東京パラオリンピックでの活躍にエールを送るかのよう、会場は拍手に包まれました。





□職 名：臨床研究部長 □氏 名：高蓋 寿朗

□セッション：□演「臨床研究2」

ランチョンセミナー「血清TARC値を用いたアトピー性皮膚炎の治療」

□発表の概要・感想：

□演とランチョンセミナー 2つのセッションの座長を務めさせていただきました。臨床研究2のセッションは臨床研究の支援業務に関する報告が中心でした。臨床研究を円滑かつ効率的に行うためにどのような支援を各病院で行っているかを知ることができ、有意義なセッションでした。また、ランチョンセミナーは広島大学の岩本先生の講演をうかがうことができ、実臨床の場で多くの患者さんの診療を行っている若手の先生の講演で非常に参考となりました。座長の立場で報告を聞き、議論に参加する経験は貴重な経験となります。若いみなさんも、もし座長の打診があったら是非引き受けてみて下さい。

□職 名：診療部長 □氏 名：下村 壮司

□セッション：□演「血液・造血管疾患」eポスター「血液・造血管疾患 1」

□発表の概要・感想：

臨床研究部長のありがたい計らいで2つの血液セッションで座長をさせていただきました。□演では特に出血をおそれて筋力が低下した血友病児への理学療法士の取り組みに大変感銘を受けました。ポスターでは当院の看護部も参加している共同研究（無菌室運用の実情）が今後の効率的な管理への基礎データとして重要な発表と感じました。反省点としては、演題が多く時間を気にして対応していたら、かなり早く終わってしまい議論の場を提供できなかったことで、今後また機会があれば改善したいと思います。



□職 名：副薬剤部長 □氏 名：幸吉 明

□セッション：一般□演91「薬剤・薬理・薬剤管理 1」

□発表の概要・感想：

今回、緊張のなか、初めて□演の座長を務めさせていただきました。標記のセッションにて、計8演題でしたが、どれもより良い医療を提供するために日々研鑽を積み重ねられていることがひしひしと伝わってくる内容でした。自分自身も、一薬剤師として、常に問題意識を持っておかなければと感じました。このような機会を与えていただきました関係者の皆様に感謝致します。ひとつ、当院の薬剤師のポスター発表の示説の時間と完全に重複してしまったため、聞きに行くことができなかったことが少々心残りです。



□職 名：事務部長 □氏 名：大谷 伸次 □セッション：シンポジウム「事務職員の人材育成」

□発表の概要・感想：

事務職員人材育成のシンポジウム座長をさせていただきました。今回のシンポジウムでは、育成する立場の課長クラスと育成を受ける側の若手職員にシンポジストを依頼し、「相互理解」をテーマに発表、ディスカッションを行いました。若手職員からはOJTの充実や指導側のスキルアップを求める意見があり、参加者から「今後の人材育成にあたり一石を投じたシンポジウムとなった」との感想も聞かれました。ご支援いただいた事務部長協議会人材育成部会並びに関係者の皆様に感謝申し上げます。

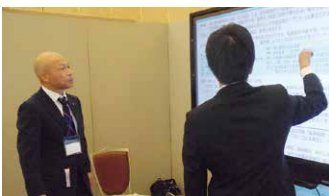


□職 名：経営企画室長 □氏 名：河根 修

□セッション：「医療連携・地域連携・地域包括ケアシステム 医療連携」

□発表の概要・感想：

「医療連携」についての発表の座長を務めさせていただきました。地域や院内の他部門の要求に応えることが医療の質向上や業務の効率化に繋がり、経営にも好影響（患者数確保、収益増、費用削減等）を及ぼすことが確認出来た発表でした。現状に留まることなく、自院や自部門に求められていることを常に認識し連携することの重要性を感じながらの座長業務でした。



今年の医学会のテーマでもある「道」。病院の中で日々生まれる葛藤や疑問に対して取り組んだことは、最初は1本の細い轍であったかもしれませんが、それらが病院の中で日々改善され、多職種が関わりあって次第に大きな太い道へと変わっていき、2452題というメインストリートとなって高松の地に集結しました。病院の経営・運営は一直線に向かうものではなく、曲がりくねった道の先を見据えたドライビングが必要となります。今回行き交った議論はさらなる改善を呼び、各病院にとってたしかに未来への道しるべとなったはず。来年の神戸の学会、そしてその先へつなげる今回の学会に関わったことを胸に、広島西医療センターはこれからも「患者さんとともに」歩んでまいります。

来年の学会は神戸で開催されます！

第72回 国立病院総合医学会
 The 72nd Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services

多様性のなかに個が輝く
 -私たちの医療を一緒に進めよう-

http://www2.convention.co.jp/72ems

会期：2018年 11月9日(金)～11月10日(土)
 会長：小西 福生（独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 院長）
 副会長：宮野前 健（独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 院長）
 会場：神戸国際会議場・神戸国際展示場

秋行事 芸術の秋でSHOW ~発表会・観賞会~

療育指導室 保育士 日高 紀 依



11月15日、16日に秋行事「芸術の秋でSHOW~発表会・観賞会~」を開催し、利用者と職員が一緒に行事を作り、みんなで楽しめるとの思いで企画しました。

15日の、「芸術の秋でSHOW~発表会~」は、各病棟の利用者による発表で、第1公演の演目は、「遠山の金さん」「爆笑・大きなかぶ」「3若ベスト3（歌）」でした。かっこいい金さんの名セリフが響き渡ったり、みんなで力を合わせて大きなかぶを引っこ抜いたり、歌好きな方々が元気よく歌ったりしました。第2公演は、「恋するフォーチュンクッキー」の歌、楽しそうな写真のライドショーも見ることができました。また、療育活動のメンバーで構成された合同グループによる「パフ」の楽器演奏は、可愛らしい衣装を着て、アンコールもあり会場全体がさらに盛り上がりました。みなさん発表会を楽しみに、練習をしたり衣装を作ったりと趣向をこらしていました。たくさんの観客のみなさんに発表することに、ドキドキわくわくされたり、感極まって涙する利用者、発表を見て笑顔になる利用者、家族もおられました。どの病棟も個性豊かな発表で、笑いあり、涙ありの和気あいあいとした発表会となり、素敵な時間を利用者で作ることが出来たと思います。

16日は、「芸術の秋でSHOW~観賞会~」でした。各病室に、職員扮するキャラクターや芸能人たちがそれぞれ訪問し、紅白対決を行いました。個性豊かな対決は、にぎやかで、いつもとは違った雰囲気を利用者の笑顔をたくさん見ることができました。対決の結果は紅組が勝ちました。個性ある芸術の秋をみなさんに感じてもらえたと思います。



サン○ヤイン川島とパジャリ



ミ○オンと2ショット



3若ベスト3（歌）



みんなで「パフ」を演奏しました



医療安全取り組み発表会の報告

～各部署に於ける医療安全の取り組み～

セーフティマネジメント部会学習グループ

今年で9回目となった広島西医療センター「医療安全取り組み発表会」が11月22日に行われました。院内22部署よりポスター掲示があり、投票の結果みごと入賞した5部署からコメントを頂きました。さまざまな気づき、院内での情報共有ができ、実りある会となりました。

第1位



1位

臨床検査科『病理標本作成における医療安全 ～インシデント“0”を目指して～ ～業務の仕方を振り返る(改善)～』

長者 陸揮 臨床検査技師

臨床検査科病理検査室では、病理標本作製における医療安全対策として、検体紛失のインシデント事例について業務内容を振り返り、その原因と対策を報告しました。

原因と対策については、病理検査室の技師で意見を出し合い時間をかけて話し合いました。インシデントについては、速やかに病理医へ報告し、一番重要な対策は、確認不足を無くし、すべての業務においてWチェックすることです。現状では人数の関係上、難しい面もありますが、確認作業とWチェックは安全な医療に必須であると考えています。今後も継続して安全な医療に努めていきたいと思ひます。最後になりますが、今回はこのような賞を頂きまして、ありがとうございました。

2位 事務部『小さいことを気にしよう!』

杉本 千保 企画課経理係

事務部は他の部署に比べてインシデントに対して意識が薄いと思ひます。それは、日常的に個人情報を取扱っているため慣れが生じていることや、直接患者さんと接する機会が少ないことが要因だと思ひます。

今回は個人情報に関するインシデントを発表しました。個人情報の流失は病院の信用を失い、大きな損害となるということを常に意識して業務に当たることが必要だと感じました。また、新たな取り組みとして総合案内の開始時間の繰り上げを紹介しました。病院にとっては小さな変化ですが、これからも小さいことを積み上げていってインシデント防止に繋がればと思ひます。

第2位



第3位



3位

放射線科『転倒転落防止のための環境整備』

西 まどか 診療放射線技師

放射線科では、前回に引き続き転倒転落防止について取り組みました。

科内のみんなで気づいたことから、転倒転落防止のためのポイントを考えました。転倒転落事故防止の一番のポイントは、スタッフ一人に対応するのが難しい患者さんの対応を、複数で行う事です。そのために、放射線科内のコミュニケーションをしっかりと取り、応援を呼びやすい環境にすることが大切だと考えています。

また、検査室内の整理整頓も行い、患者さんにとって安全な環境づくりを心掛けています。

転倒転落事故は検査中だけではなく、あらゆる場面で起こります。今後もスタッフ同士で協力し合い、転倒転落事故防止に努めていきたいと思ひます。

第4位



4位 西2病棟『来年こそは！ 日々の努力で本当に達成！褥瘡ゼロ！』 藤中 智美 副看護師長

当院では褥瘡対策チームが設置され入院患者さん全員に医師・看護師・栄養士と多職種がチームとなり褥瘡発生予防に取り組んでいます。西2病棟でも褥瘡発生ゼロを目標に日々看護してきました。本年度は特に①カンファレンスを計画的に実施することで褥瘡発生リスクにおける早期介入②入院時の患者情報から適切なベッドマットの選択と使用について取り組みました。その結果発生件数を減少させることができました。しかし依然目標(褥瘡発生ゼロ!)達成には至っていません。今後もこの取り組みを継続させるとともに、入院中の患者さんの病状の変化や活動性の変化を正しくアセスメントし、適切なタイミングでの看護ケアと褥瘡発生予防対策介入が出来るように取り組んでいきたいと考えています。

4位 1若葉病棟『事例から振り返る カニューレ抜去防止への取り組み』

畑中 弘美 副看護師長

1若葉病棟は、カニューレ抜去再発防止への取り組みを行いました。事例から問題点を振り返り、再発防止策をスタッフ全員で話し合いました。患者さんの安全を守ることは、看護師の役割であり責任でもあります。安心して療養生活を過ごしてもらうために、スタッフ全員が共通課題の認識をする必要があります。今回の事例を振り返り、その改善策として、患者個々に合わせ首回りの測定を行い、測定値をビニールテープに記載し見本を作りました。カニューレを取り出す時は、見本とカニューレホルダーの長さを確認し、装着した時は、首とカニューレホルダーの間に指が入るか、マジックテープの強度を確認することをスタッフ全員が周知、実施する取り組みを行いました。このことから再発防止に努める事ができています。今回、発表の機会を与えてもらったことを活かし、今後も医療安全対策の推進を行っていききたいと思います。

第4位



第8回休日前立腺がん検診

前立腺がんの早期発見を目的に前立腺がん検診を日曜日に実施します。
平日は仕事で忙しくて受診できない方、ぜひこの機会をご利用ください。
当日は浅野診療部長による講演会もございます。

- 日 時 平成30年3月4日(日) 9時～15時
- 場 所 広島西医療センター
- 対 象 40歳以上の男性
- 検 診 料 1,500円
- 内 容 問診・血液検査・下腹部超音波(前立腺)検査
- 申込方法 広島西医療センター健診センター 平日13時～17時
TEL0827-57-7183(内線2364)または0827-57-7151
- 講 演 会 演題:「健康と体温」
講師:泌尿器科診療部長 浅野 耕助
時間:11時～12時
場所:広島西医療センター中央診療研修棟3階大講堂
* 予約不要・参加無料





患者図書室から

どんな本があるのかな？

「図書紹介ファイル」2018年版 出来ました！



今年も、2種類の図書紹介ファイルを作りました。

病気や健康に関する本を紹介する **ピンクのファイル** 「健康情報のひとしずく」。💧 疾患別にお薦めの本を写真入りでご紹介しています。

一方、小説やマンガ、絵本などの一般図書をご紹介しているのは、**白いファイル** 「さつき文庫リスト」。

それぞれ待合室、病棟デイルームなどに置いてあります。

「病気や健康に関する本」の貸し出しは「入院患者さんとそのご家族のみ」ですが、閲覧はどなたでもご自由に出来ます。通院患者さんには診察待ちの時間のみ、貸し出しをしています。

さつき文庫は一般の方にも貸し出しをしており、マンガなどは多くの方に喜ばれています。

※返却期限はどちらも1週間です。

ぜひ、紹介ファイルをご覧ください。



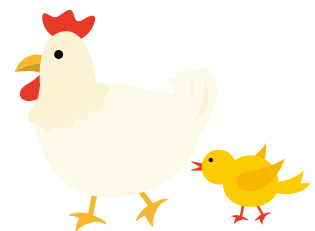
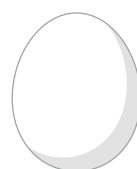
「図書リスト」ファイル

左のピンク色が「健康情報のひとしずく」
右の白色が一般図書「さつき文庫リスト」



「卵の殻アート」

二つの卵を使って患者さんが作りました。
他にも「文字米粒」（米粒に小さな文字や絵がびっしり！）なども飾っているので、ぜひご覧ください。
図書室には折り紙や、クイズもあります。
気晴らしに、ぜひ、どうぞ。





糖尿病患者会 第9回バイキング昼食会を開催しました!

糖尿病対策委員会&栄養管理室

11月14日は「世界糖尿病デー」。これは糖尿病の予防や重症化予防を啓発する目的で2006年に国連総会で公認された日です。当院では全国糖尿病週間中の15日に糖尿病患者会のバイキング昼食会を開催しました。

今回のテーマは「秋の味覚を楽しもう!」。秋鮭や秋ナス、きのこ、かぶ、ごぼう、柿など旬の食材を取り入れ、調理師が腕をふるった料理を前にして、皆さん迷いながらも決められたカロリーの中で選ぶ事ができました。

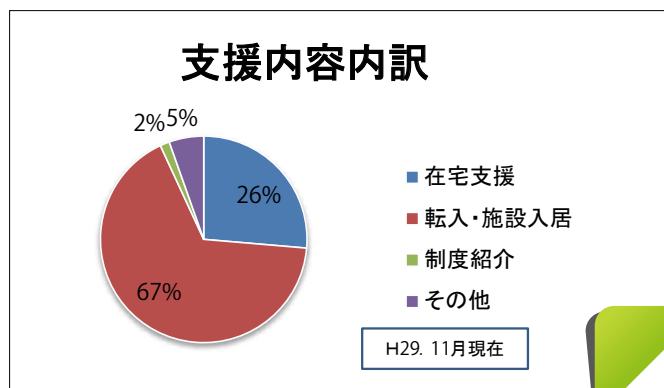
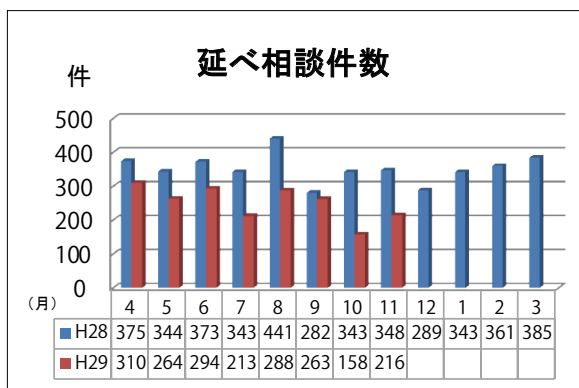
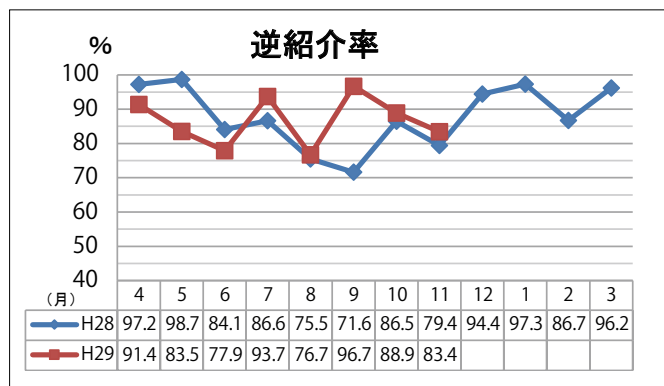
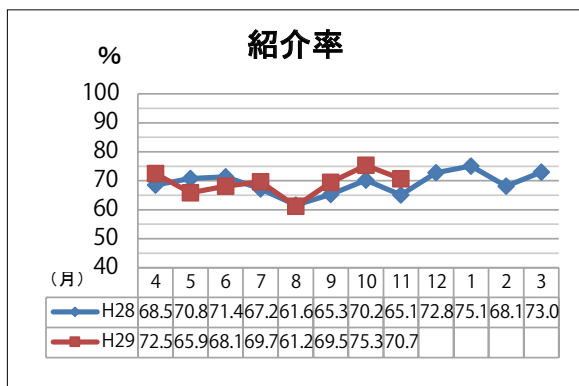
また、きのこやごぼうの効能や果物の良い食べ方を学習したり、出席者とスタッフで日頃の悩みや頑張りについて話をしながら会食しました。

糖尿病講座「やってみよう! 今日からできる口腔ケア」では、甲斐切歯科衛生士より糖尿病と歯周病が密接に関係していることや口腔ケアのポイントについてお伝えし、血糖コントロールのためにもお口のケアが重要であると感じて頂けたようです。

当院で治療中の方は糖尿病患者会の会員以外でも参加できますので、興味を持たれた方は次の機会にぜひご参加下さい!



地域医療連携室実績報告



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今月号は、11月に香川県高松市で開催された国立病院総合医学会の特集です。当院の多くの職員が口演やポスター発表、座長を務め、医療の質の向上に奮闘した記事を掲載しています。

(事務部長 大谷 伸次)

外来診療担当医表

広島西医療センターホームページでも紹介しています。ご利用ください。
<http://www.hiro-nishi-nh.jp/>

広島西医療センター

※受付時間 午前8時30分から午前11時まで

…前号からの変更箇所

平成30年1月4日現在

		月	火	水	木	金	備考
総合診療科	初診	亀谷 貴浩	伊藤やよいこ	溝岡 雅文	生田 卓也	亀谷 貴浩	下記の専門領域以外の新患
	再診	AM角野 萌(血液)	AM亀谷/PM生田	AM生田 卓也	AM亀谷 貴浩	/	
内科	1診	呼吸器/血液	広大(呼吸器)	宗正昌三(血液)②	八尾尚幸(血液)①	広大(呼吸器)	八尾尚幸(血液)②
	2診	消化器/肝臓	藤堂祐子/山中秀彦(消化管)	福原崇之(肝臓)	山中秀彦(消化管)	福原崇之(肝臓)	藤堂祐子(消化管)
	3診	消化器/内分泌代謝/血液	鼻岡理恵(消化器)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	太田逸朗(内分泌代謝・血液)	角野 萌(血液)
	4診	循環器/血液	楠 正美(循環器)	角野 萌(血液)①	下村壮司(血液)②	下村壮司(血液)②	宗正昌三(血液)③
	5診	循環器	藤原 仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原 仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原 仁(循環器)
	6診	腎臓/循環器/血液	倉恒正利(腎臓)	倉恒正利(腎臓)	楠 正美(循環器)	高蓋寿朗(血液)①	広大(血液)①
神経内科	1診	村尾 智美	渡邊千種(物忘れ)(第2・4・5)	渡邊 千種	牧野 恭子	檜垣 雅裕	予約制
	2診	牧野恭子(パーキンソン病)	村尾智美(第1・3)	村尾 智美	檜垣雅裕(頭痛)	渡邊千種(筋疾患)	予約制 PM
C A P D 外来		倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	予約制 PM
インスリンポンプ外来		太田 逸朗	/	/	/	太田 逸朗	予約制 PM
禁煙外来		/	担当医	/	/	/	PM2~4 予約制
小児科	一般外来	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	
	専門外来	予防接種※	慢性外来	乳児健診	慢性外来	/	PM ※は月曜日が休日の場合火曜日
小児科	小児脳ストロフィー	伊藤明子・古川年宏	伊藤明子・福田清貴	伊藤明子・古川年宏	伊藤明子・古川年宏	伊藤明子・福田清貴	予約制
	重症心身障害	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	
	発達外来	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	
	小児心身症	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	
補装具		/	/	/	/	木村(第2・4)	予約制
外科	初診	石崎 康代	今岡 泰博	嶋谷 邦彦	齊藤 竜助	嶋谷/今岡/石崎/齊藤	金曜日交代制
	再診	嶋谷 邦彦	齊藤 竜助	石崎 康代	今岡 泰博		
整形外科	初診	岩崎 洋一	藤原 祐輔	永田 義彦	/	糸谷 友志	木曜日手術日
	再診	糸谷友志/(永田義彦)	永田 義彦	岩崎 洋一	/	永田 義彦	
	再診	藤原 祐輔	糸谷友志(岩崎洋一)	糸谷友志/(藤原祐輔)	/	藤原祐輔/(岩崎洋一)	
泌尿器科	1診	浅野耕助/福島貴郁	浅野 耕助	浅野 耕助	藤井 慎介	浅野 耕助	
	2診	長坂 啓司	福島 貴郁	長坂 啓司	福島 貴郁	長坂 啓司	
産婦人科		新甲 靖	新甲 靖	/	新甲 靖	/	予約制
皮膚科		稲束有希子	稲束有希子	/	稲束有希子	稲束有希子	水曜日手術日
眼科		広大医師AM	/	/	/	/	第2・第4月曜日

●予約窓口●

- ・患者さんからの直接予約・予約変更は、平日13時~16時までに予約センターへご連絡下さい。
- ・医療機関からの予約 (CT・MRI 含む) は、地域医療連携室へご連絡下さい。
- ・予約窓口がわからない場合も、地域医療連携室にご連絡下さい。

糖尿病教室を開催しております

参加ご希望の方は、あらかじめ予約をお願いいたします (当日予約可能です)。

問い合わせ先: 栄養管理室(0827)57-8192

■病院代表電話番号 TEL (0827)57-7151

■予約センター(直通) TEL (0827)59-0251

■地域医療連携室

ダイヤルイン (0827)57-7183 (内線2140)

FAX (0827)57-7701